

vol. 272

Autumn 2022

お茶の水女子大学の今を伝える広報誌

Ochadai
お茶大ガゼット

GAZETTE



Contents

02 世界にはばたくお茶大生

森山 新
国際教育センター長 / 基幹研究院人文科学系 教授

04 留学経験者インタビュー

06 学生のアクティビティ

微音祭実行委員会

08 教員紹介

岩崎 貴也
基幹研究院自然科学系 講師

09 卒業生紹介

高村 愛 さん
文教育学部人間社会科学科 卒業

10 附属学校園からのお知らせ

附属高等学校

世界にはばたくお茶大生

お茶の水女子大学では、「グローバル女性リーダーの育成」をミッションに掲げ、多様な留学プログラムや留学奨学金制度を備えています。現在、学生に占める留学率は、国立大学中2位^{*1}であり、在学生の留学に対する関心も高くなっています。今回の特集では、本学のグローバル教育について、国際教育センター長 森山 新 教授にお伺いします。



森山 新

国際教育センター長 / 基幹研究院人文科学系 教授
研究分野は、日本語教育学、シティズンシップ教育。

赤松: コロナ禍ながら留学を考える学生も出てきています。まず、本学の留学制度について、教えていただけますか。

森山: 大きく分けて、交換留学と短期留学の2種類あります。交換留学は、1学期間、あるいは1学事年度滞在する留学で、本学との海外協定校^{*2}に留学します。一部例外もありますが、本学の授業料を納めることで留学先の協定校の授業料が免除され、また先方の学生と一緒に授業を受けることができます。一方、短期留学は、協定校などで開催される語学研修をはじめとした各種研修プログラムに参加するもので、夏季休暇あるいは春季休暇を利用し、2週間から6週間の期間参加します。

赤松: 交換留学をしたい場合、どのように準備を始めたらいかが、教えてください。

森山: まず所属する学部学科の教員に相談することを勧めています。学部生ならその4年間をどのように過ごすかに関係するからです。留学中取得した単位は協定校であれば単位

互換ができますので4年間での卒業も可能ですが、留学により、本学でないと履修できない科目などがある場合、4年間での卒業が難しくなる場合もあります。また何よりも留学する目的を明確にすることが大切です。留学先を国や地域で選ぶ学生がいますが、留学は海外旅行とは異なります。留学とは単に国際経験を積むだけでなく、派遣先大学で学ぶことが第一の目的です。自身が学びたい内容について、どの大学や教員から学べるのかなど、協定校のウェブサイトや国際教育センターの冊子などを見ながら、具体的な計画を立てることが重要です。

赤松: 留学をするには、語学力を身に付けることも必要ですね。

森山: そうですね。留学先を決めるときに、希望する大学が求める語学力と成績を確認する必要があります。英語圏でなくても英語で学べる協定校もありますので、英語力が十分でない場合、非英語圏の大学で英語での授業に参加するなど、留学先の大学を再検討

するようアドバイスしています。多くの学生は、2年時の9月から交換留学をします。その場合、1年生の10月の募集に申請するため、それまでにサマープログラムや短期研修に参加するなどして、語学力を高めておいた方がよいでしょう。2年時の10月に交換留学の応募をする学生も増えていますが、2年生で応募、3年生で留学する場合、就職活動が遅れたり留年したりする可能性が出てきます。よって国際教育センターでは、新入生の留学オリエンテーションで、早め早めに留学の計画を立てるよう促しています。

赤松: 大学院生で留学したいという相談もありますか。

森山: はい。大学院で留学する場合、内部進学制度を使い大学院入学後、すぐ留学する学生もいます。学部留学との大きな違いは、留学期間中に、授業だけでなく、修士論文、博士論文の研究を行う学生も少なくありません。ですから留学中の具体的な研究計画を立てることが特に重要です。大学院の場合、

単位互換できないこともあるため、留学前は必ず指導教員と国際教育センターに相談していただければと思います。

赤松: 長期の交換留学の場合、経済面で不安な学生もいると思いますが。

森山: 全員に奨学金を給付できるとは限りませんが、本学の留学に関わる奨学金は、かなり充実していますので、多くの方が奨学金をもらっていました。ですので奨学金制度は積極的に活用していただければと思います。英語圏では一般的に日本よりも物価が高いことから、経済的に不安な学生は、東欧、東南アジアなどの大学を勧めることもあります。最近では、オンライン留学も経済的な負担も抑えつつ、ある程度留学経験ができますので、これも一つの選択肢となり得ます。

赤松: このほか国際教育センターではどのような留学サポートをされていますか。

森山: 留学前には、国際教育センターが開催する事前授業への参加を必須としています。この授業を通して、異文化間理解や危機管理セミナーなど留学に役立つ知識を身につけてもらいます。また、留学中は、国際教育センターと連絡教員とが連携しながらみなさんの安全を見守っています。その他、本学は、民間の海外危機管理サービスと包括契約しているため、24時間体制で渡航中のサポートも行っています。

赤松: 長期の交換留学より、短期留学の方が気軽に参加できる印象があります。短期留学に参加したい場合は、どうしたらよいのでしょうか。

森山: 夏季短期留学は4月、春季短期留学は10月に説明会を行っていますので、まずはそれに参加していただければと思います。メーリングリストも作っていますので、留学に関係する情報を入手したい方は入っておくと思います。短期留学は、本学が企画し、一緒に渡航するプログラムや、協定校が主催し、個人が参加するプログラムなど、様々な種類があります。語学研修が比較的多いですが、現地学生との交流や特別講演会に参加するなど、語学学習に留まらない内容になっています。

赤松: 森山先生は、これまで多くの学生の留学を見届けてこられました。留学前と留学後の学生に、どのような変化を感じられますか。

森山: 一番は積極性を身に付けることができたと感じます。日本の授業は、一般に受身的ですが、海外では、発言しなければ存在すら認めてもらえないことも多く、そうした環境で学ぶことで、自分たちのこれまでの常識が変わり、日本に帰国してからも、人前で積極的に自分の意見を言えるようになったと感じます。

赤松: 森山先生から、最後に学生のみなさんへのメッセージをお願いします。

森山: ぜひ若いうちに海外に出て、マイノリティの立場を経験してほしいですね。日本は、ほぼ他国に比べると均一性の高い環境ですので、多様性の中で揉まれてほしいと思っています。マイノリティの立場も経験することで、多様性を尊重することの大切さを実感できると言えます。これは、世界をリードしていくうえで大切なことです。私も、海外での学びは大きく自分自身を変えたので、柔軟な若いうちに、留学を経験してほしいと、強く願っています。

※1 THE 世界大学ランキング日本版2022年調べ

※2 本学との海外協定校 … 89大学
(2022年3月現在)

QRコードはこちら ▶



聞き手: 赤松 利恵
広報・学術情報担当副学長、広報推進室長
基幹研究院自然科学系 教授

学びのキーワード

交流型授業

COIL (国際オンライン協働学習) など主に英語を用いて海外の大学と交流する授業。サマープログラムや春に行われる国際学生フォーラムなどが代表的である。

ACTプログラム

コミュニケーション技術の修得を目的とした実践的な上級英語プログラム。プレゼンテーション、

ライティング、ビジネス英語、資格英語などの実践的な英語科目群から構成される。

ランゲージ・スタディ・コモンズ

共通講義棟 3 号館にあり、外国語学習相談や学習会、語学カフェに活用されている。視聴覚教材や語学検定教材、語学学習専用のシンクライアントPCもある。

令和4年度「大学の世界展開力強化事業」～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～に採択

- プログラム名称
グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型EDIプログラム

文部科学省では、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力を強化するため、日本人学生の海外留学と外国人学生の受入れを行う国際教育連携の取組を支援する「大学の世界展開力強化事業」を実施しています。

井出 麻季和さん

文教育学部 4年
留学先:タマサト大学
(タイ)
期 間:2022年1月~
2022年5月

青木 安彌さん

生活科学部 3年
留学先:ヴァッサー大学
(アメリカ)
期 間:2021年8月~
2022年5月

木村 ころろさん

文教育学部 4年
留学先:マンチェスター大学
(イギリス)
期 間:2021年9月~
2022年6月

小山 愛理さん

生活科学部 4年
留学先:コペンハーゲン大学
(デンマーク)
期 間:2021年8月~
2022年1月

取材

小島 真凜
企画戦略課(広報担当)

聞き手

谷口 幸代 准教授
基幹研究院人文学系



受入留学生の
体験談について



留学奨学金に
ついて

留学経験者

コロナ禍での留学を経験した皆さんと座談会を開催しました!

インタビュー

留学を志した きっかけや目的について 教えてください。

井出 将来は国際協力に携わりたいと考えており、実際に途上国や中進国の貧困層の方はどのような暮らしをしているのかを学びたいと思いました。協定校リストから、女子学生一人でもフィールドワークがしやすい国を選び、留学先を決めました。

青木 高校2年生のときにオーストラリアで二週間ホームステイを経験し、現地の高校生が積極的に授業に参加している姿に感銘を受け、そういった環境に身を置きたいと考えました。専攻とは関係なく様々な授業をとることができるリベラルアーツ・カレッジで、留学後のキャリアについてより深く考えたいと思いました。

木村 価値観を広げ、自身をもっと成長させたいと考えました。私は美術史を専攻し、アートをもっと社会の中で活かしていくにはどうしたらよいかを考えていて、アートをより社会化していく動きが歴史的にある、イギリスの現場で実際に学びたいと考えました。

小山 大学1年生のときにサマープログラムに参加し、海外の学生が自分の意見を論理的に述べている姿に感銘を受け、積極的な姿勢がある環境で学びたいと思いました。社会福祉を専攻しており、幸福度が高いとされる北欧圏の大学で、学部生の授業を英語で受けることができる留学先を決めました。

現地での学びや 生活はいかがでしたか。

小山 興味があった社会福祉について、格差是正の促進を目指す価値観や背景を現地で深く学ぶことができました。全ての方を社会の中に包括し活躍してもらうため、教育システムなどを通じて、離脱した人を就労の場に戻す社会のあり方や、歴史がそうさせる面があった、土壌が元々あった、ということを現地で学び、自身にとってとても価値のある経験でした。

木村 クラスに留学生は自分だけという状況で、特にディスカッションの際には苦勞し、萎縮して何も言えず悔しい思いをしたこともありましたが、友人からアドバイ

スをもらい、努力を重ね、自分の成果を少しずつ積極的にアピールし、活発にディスカッションできるようになりました。

井出 タイでの生活は自分に合っていました。クロントイ・スラムで日本と関わりのあるNGOのインターンシップに参加し、様々な方と交流しました。道脇の屋台で売られているトロピカルフルーツなど、気軽に現地の食文化に触れることもできました。旅行したことも思い出です。

青木 勉強しない日があると不安になるくらい図書館にこもっていましたが、キャンパス内の食堂が私の留学生生活を支えたといっても過言ではありません。豊富なメニューの食事を楽しんだり、空きコマに勉強場所として活用したり、教授や友人と話をしたりとたくさんの思い出があり、留学生活で一番恋しいのは食堂で過ごした時間です。

学習面以外で大変なことはありましたか。

木村 新型コロナウイルス感染症流行の影響で、一時帰国の際は隔離など入国規制がありました。誰かがまとめた二次情

報ではなく、外務省や厚生労働省のHPなど、一次情報を自分の目で確認するよう心がけていました。

小山 情報を自分で一つずつ把握して備えていく経験は、振り返ると留学の醍醐味であったと感じています。

青木 ダウンタウンは昼間でも危ない地域があったため、単独で出歩くのは控えるなど治安の面で気を張りました。

井出 思わぬ怪我也あったため、有事の際に連絡がつく現地の保険会社の連絡先を予め把握しておくことが自身の身を守るため大切だと感じました。

留学の成果と今後の 展望をお聞かせください。

青木 帰国後も勉強を続けたいと思える、「Global Political Economy」という学問に出会いました。学んだ理論を活かしながら、日本での問題についても調べていきます。また、自身の経験を通じて、お茶大に受入留学生としてきている方と仲良くなりたいと思っています。

井出 現地の方々の温かく寛容な人柄に触れ、恩返ししたいと思うようになりました。肌身で感じたことをもとに、自身がどのように国際協力と関わっていくべきなのか、深く考えていきたいです。

小山 知識の構造を学び、社会に対して今まで疑問を持たなかったことにも新たな視点を持てるようになり、今後の研究に活かすことができると思います。また、度胸もつきましたし、自分の考えを言語化して落とし込めるようになりました。

木村 いろいろな在り方があるアートをもっと身近に社会化したく、「アートマネジメント」という視点で新しい学問を学び、今後、行動を続けながら進路を決めていきたいです。価値観が広がり、選択肢が増えたことは良いことだと思っています。

留学を考えている方へ メッセージをお願いします。

全員 興味があればぜひ一歩踏み出してほしいです。不安は自分の努力次第で克服できますし、経験したことのない困難も、やりようによって意外となんとかなります。

留学中はとにかく必死ですが、頑張っていれば、振り返った際に多くの学びがあると思います。一生の財産となる貴重な経験ですので、ぜひ挑戦してみてください！



留学に関心のある学生の皆さん、「留学ガイド」がMoodleに掲載されていますので、ぜひご確認ください！



学生の アクティビティ

徽音祭

お茶の水女子大学

11月12日(土)・13日(日)に開催される
学園祭「徽音祭」について、徽音祭実行委員の
3人にインタビューをしました！

～委員長～

小笠原 香織さん

文教育学部 言語文化学科
グローバル文化学環 3年

～副委員長～

吉原 賀子さん

文教育学部 人間社会学科
社会学コース 3年

～HP担当～

田茂山 史恵さん

文教育学部 言語文化学科
日本語・日本文学コース 3年

テーマ「stella」の由来や
願い、ロゴについて教えて
ください。



「stella」はイタリア語で「星」を意味する言葉です。このテーマは実行委員会内で考案されました。テーマ決めの際に、今年の徽音祭は明るくて温かい、そして人との繋がりを感じられるものにしたいという意見が多く聞かれました。また、ロゴはこれまでのような分かりやすさがありつつも、「史上初のハイブリッド開催」のように進化した様子も表す、洗練されたものになりました。

夜空に煌めく星は、大きさも色も異なりますが、その多様さこそが魅力です。そして様々な星は集まる事で輝きを増します。また一見離れているような星も、一つの星座としての繋がりをしています。

そんな星のように、違った個性を持つ人々が徽音祭に集まり、一人では成し遂げられない発表や様々な企画を実施し、輝きを放てるように。そして、この徽音祭を通してたくさんの人が繋がれるように。そんな願いを込めて掲げているテーマとロゴです。

これまでの活動は
いかがですか。



現在199人も委員が所属しているにも関わらず、対面開催の徽音祭を経験したことがある人はひとりもいません。また、今年は3年前までの対面開催とも違う「ハイブリッド開催」、つまり、対面でもオンラインでも企画を実施しなければならないので、やはり軌道に乗るまでは各委員のなかにも戸惑いがありました。



「学生相談室」は、忙しく遠方から来場はできない受験生にも好評でした。このようにより多くの方にお楽しみいただける機会として、オンラインの企画をご用意しております。

2年間のオンライン開催を経て、「学園祭とは何のためにあるのか」を今一度考えることを迫られました。受験生にお茶大の魅力を知らってもらうため、地域の方との交流の場となるため…。目的は様々ですが、一番は「学生が輝く場となるため」と考えています。ゼミでの研究発表、サークルのステージ発表、学科の仲間との模擬店出店など、学生の笑顔が輝く場を作り、その瞬間をお届けすることが、学園祭がもつ大切な役割です。そして、その瞬間が学生の皆さんの、大学生活における思い出として色濃く残ってほしいと心から祈っています。

最後に一言、お願いします！

今年に限っては、おすすめ企画を絞ることができないです！（笑）全ての企画が、初めて対面で見られるものなので、全部おすすめですし、全部にご期待いただきたいです！



工夫している点はありますか。

先述の通り、オンラインにはオンラインの良さがありました。例えば企画のひとつの「受



徽音祭公式ホームページURL
<https://kiin-fes.com/>



Twitterアカウント

お茶の水女子大学
徽音祭実行委員会
73rd
ユーザーネーム：
@kiin73rd



きいちゃん@お茶の水女子大学第73回
徽音祭
ユーザーネーム：
@kichan_kiinsai



Instagramアカウント

お茶の水女子大学徽音祭
ユーザーネーム：
@ocha.kiin



Student Topics

ジェンダー・イノベーション研究所
第1回学生セミナー(9月8日開催)



学部生・院生が、自ら考案した性差の視点を考慮した商品やサービスについて英語プレゼンテーションを行い、ジェンダー・イノベーション研究の第一人者であるロンダ・シーピング教授にご講評いただきました。世界トップレベルの研究者と未来志向の議論をする貴重な機会でした。

詳細はこちらをご覧ください。



教員紹介

Interview

岩崎 貴也 先生

基幹研究院自然科学系 講師

Profile

兵庫県出身。京都大学理学部卒業後、首都大学東京(現 東京都立大学)大学院理工学研究科で博士(理学)の学位を取得。千葉大学、東京大学、京都大学での研究員、神奈川大学での特別助教を経て、2021年4月に本学に着任。

Q1 研究者・大学教員を志したきっかけをお聞かせください。

応用より基礎を突き詰めて学ぶ方が性に合っている気がしたので理学部に進学しましたが、10代の頃から何がなんでも研究者・大学教員にと考えていたわけではありませんでした。ところが、研究室に入って実際に研究を始めると、「自分の研究に関して誰よりも深く自分が考え、自分でフィールドに出て調査をし、自分で実験・解析をし、誰よりも先に自分が結果を知って考察できる」という自由なところがとても楽しく、あつという間にどっぷりと研究生生活にはまってきました。研究室の先生や先輩、学会での研究仲間と付度無しにガッツリ自由に議論して良い(むしろすべき)という雰囲気がとても魅力的だったのも大きいです。そのような研究生生活をずっと続けていきたいと考えたのが、研究者・大学教員を志したきっかけです。もちろん実際には様々な仕事があって研究だけをするわけではないのですが、自由に研究するというスタイルは今でも大事にしています。

Q2 ご研究のテーマ、特にワクワクすることをお聞かせください。

研究では山や地域、大陸など様々な地理的スケールでの野生植物の多様性に興味を持っており、植物が辿ってきた進化の歴史や、自然界での生存メカニズムについて、フィールド調査や分子実験、コンピュータ解析などを総動員し

ての解明に取り組んでいます。フィールドでは、まだ知られていない様々な多様性(例えば、この地域のものは他の地域のものとなにか違うぞとか、この種とあの種は何か関係がありそうぞとか)に気が付きます。その原因・理由について研究室での分子実験やコンピュータ解析を駆使して調べていくのですが、最初に考えた仮説通りでも仮説と違う結果でも、客観的な証拠を積み重ねて深く考えるという研究プロセス自体がとてもワクワクします。

Q3 フィールドワークならではの「ご苦労や失敗談」をお聞かせください。

フィールドワークでは安全管理が一番の課題です。山の中でクマに遭遇したことはまだありませんが、クマの気配(とても臭い)を近く感じたことは何度かあります。北海道での調査時、ヒグマが活発に活動する夕方遅めの時間帯になってしまい、ほんの数分前に通った場所にヒグマの糞が落ちていた時は肝を冷やしました。イノシシやマムシ、ニホンザル、野犬などに出会うこともありますし、今は何よりも安全管理に気をつけて調査をするようにしています。

Q4 将来の夢をお聞かせください。

生物多様性について深く理解し、大学での経験を活かして大学でも企業で広く活躍できる

ような人材を1人でも多く育てていきたいと考えています。まだ研究室を立ち上げたばかりということもあり、まずは学生が自由な学び・研究に没頭できるような良い研究室環境を整えたいというのが一番大きいです。1つずつ研究を積み重ねていくことで、日本列島における植物の進化に関して新しい共通性を明らかにし、社会における生物多様性を“見る”解像度を少しでも高めることで、生物多様性保全に貢献できればと思っています。

Q5 お茶大生へのメッセージをお願いします。

人生において、大学生活ほど自由な期間はなかなか得られないかもしれません。ぜひいろいろな友達を作り、いろいろなことを学び、いろいろなことに挑戦してください。自分の今の価値観だけに拘らず、視野を広げ、新しい価値観を作っていく場として大学を活用してもらえればと思っています。皆さんがお茶大を卒業する時に大きく成長できているよう、教員の1人としてしっかりサポートしていきたいと考えています。

担当:宮崎 充彦
基幹研究院自然科学系 准教授



Takaya Iwasaki



Q1 現職に就くまでの経緯を教えてください。

博士後期課程に在学中、当時のアカデミック・プロダクション主催のポスドク・博士課程生のワークインプログレスというイベントに参加しました。学生による研究内容・自己アピールについてのポスター発表と、企業の方との個別交流会があり、多くの企業の方とお会いしてお話しました。自分のポスター発表に、想像していたよりも多くの企業の人が関心を持って訪れてくださり、とても驚いたのを覚えています。多様な企業において様々な理由で、心理学の知識をもった人材が求められていると知るきっかけとなりました。このイベントで資生堂の人事担当の方とお話し、新卒採用にエントリーしました。たまたまこのイベントで資生堂の方と出会いましたが、自分の関心領域と会社の理念が共通しており、運のよい出会いだったと感じています。

Q2 心理学は現在の仕事にどのように活かしていますか。

心理学の様々な研究知見や理論についての知識、インタビューやアンケートといった調査手法、統計の知識や分析スキル、すべてが現在の仕事に活かしています。「企業に就職すると、大学での自分の専門とは全く違うことをすることが多いんでしょ?」と聞かれることも結

構あるのですが、私の場合は日々の仕事で活かせる場面がとても多いです。

私は現在資生堂で、基礎研究や製品開発のための市場・お客さま分析を担当しています。分析にあたり、インタビューやアンケートを実施することもあります。また、お客さまの気持ちを理解するにあたり、心理学の様々な研究知見や理論を参考にすることもあります。過去にはDX(デジタルトランスフォーメーション)・データ分析の仕事を担当していたこともありますが、統計や分析スキルをフル活用していました。統計についての基礎知識があることは、デジタル化やデータ活用の進む世の中において、とても役に立つと感じています。

そして、専門の心理学が役に立つ場面もありますが、大学院で学び培った論理的思考力や仮説立案・検証といった研究の基本スキルが仕事に役立つと感じています。専門性と研究スキルの両方が役に立っていると感じます。

Q3 お茶大生にメッセージをお願いします。

月並みなコメントになってしまいますが、在学中にできることを精一杯楽しんでください。私は心理学を仕事にしたいと思い博士後期課程まで進みましたが、専門の知識やスキルはもちろん、その他の学んだこともいろんな場面で活かしています。学部や博士前期課程の頃に受講していた他分野の知識が仕事でも私生活でも活き

るときがあって、受講していたよかったなと思います。ふとしたときに、もっと学んでいたらよかったなと思うときもあるくらいです。躊躇せずに自分の興味関心にしたがってたくさん学び、自分の糧にしてください。お茶大にはまじめな方が多いので、私なんか言われなくてもみなさんたくさん学ばれそうですね。

また、お茶大在学中に出会った友達は私の財産だと思っています。同じ学科やサークル、その他の社会活動で出会った人との縁はその後も続いて、様々な場面で自分の助けになっています。研究や勉強以外の時間も楽しむことが、結果としてその後の人生にもいい影響を及ぼしています。学びも遊びも、精一杯楽しんでくださいね。

担当:今泉 修
人間発達教育科学研究所 准教授



卒業生紹介

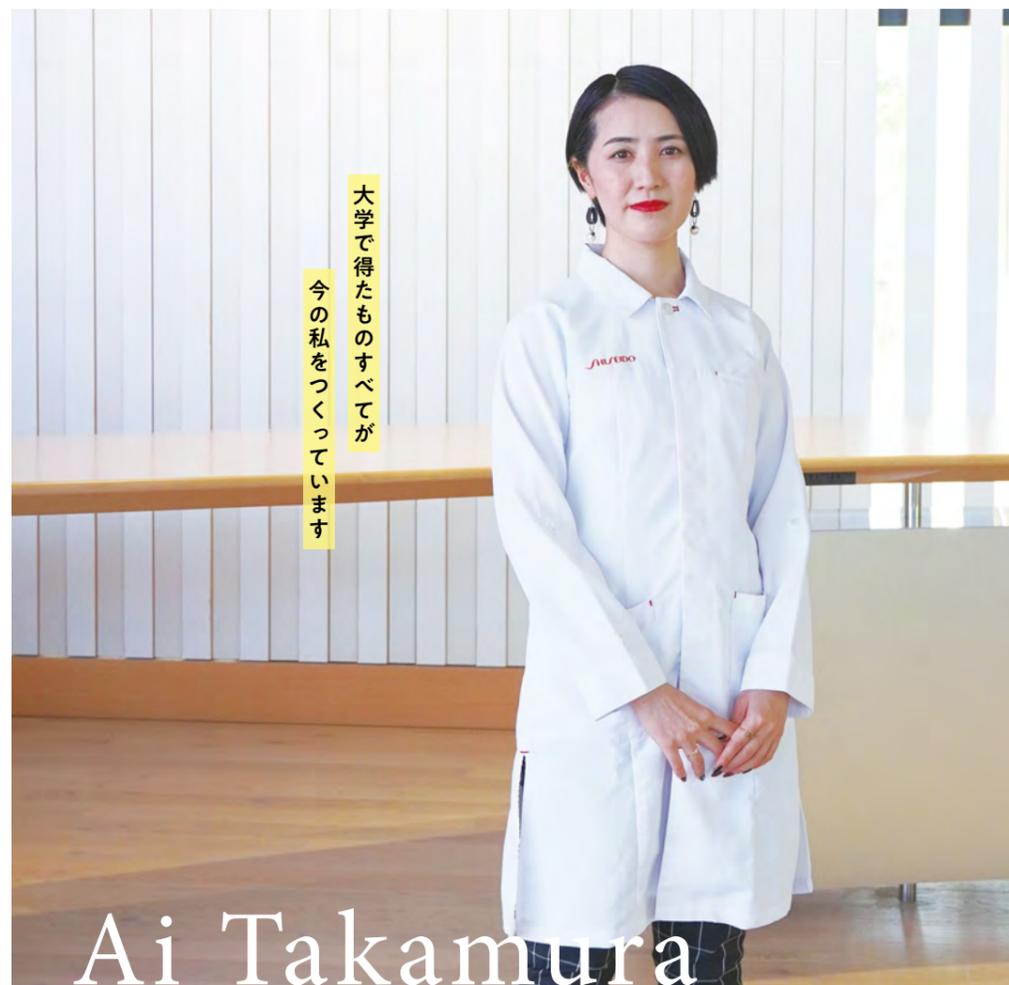
Interview

高村 愛 さん

株式会社資生堂

Profile

2013年3月お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科卒業。2015年3月お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻心理学コース修了。博士(人文科学)。2018年4月株式会社資生堂入社。現在に至る。



Ai Takamura

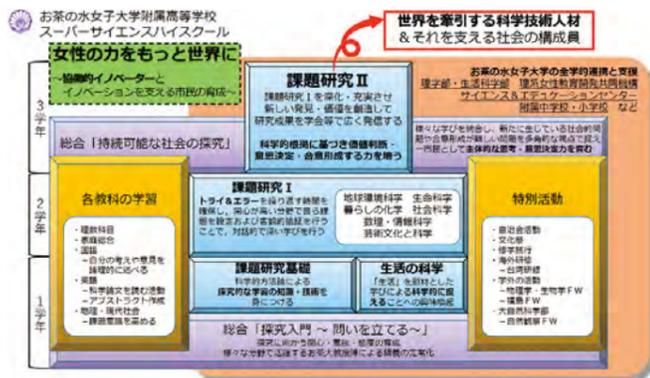
大学で得たものすべてが今の私をつくっています

附属学校園からの お知らせ



スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業

附属高校は、2019年度より「女性の力をもっと世界に～協働的イノベーターとイノベーションを支える市民の育成～」をテーマにSSH事業を開始しました。SGH事業での経験を活かし、イノベーションを牽引・グローバルに活躍できる女性、文理問わずサイエンスリテラシーを持つ市民の育成を目指しています。



■図1 SSH概念図 2019年度文部科学省への提出資料



■ 社会や自然界の諸事象に関心を持ち、科学的に捉える能力 ■ 客観的な根拠に基づき、論理的に仮説を立て、適切な科学的手法により検証する能力 ■ 既習の知識・教養を統合し、科学的方法論により新たな発見・価値を創造する能力 ■ 科学的根拠をふまえて価値判断・意思決定・合意形成する能力 以上の能力の育成を目標として、全校生徒を対象に全教員体制で研究開発に取組んでいます(図1)。

第1学年では、家庭科の学校設定科目「生活の科学」をおき、自らの生活や社会を科学的に理解し、分析しようとする姿勢を育てる学習活動を実践しています。学校設定教科「課題研究」のうち、第1学年の「課題研究基礎」では、科学的探究に必要な知識・技能を培うべく、理科・数学・情報の3教科教員が連携し、体験的融合的な学びを実施しています。第2学年の「課題研究I」では、3単位という十分な時間を確保し、個人やグループごとに、文理併せ6領域8分野で課題研究活動に取り組んでいます(図2)。



■図2 SSH2021 (R3) お茶の水女子大学附属高等学校 第2学年 課題研究I ロードマップ



第3学年では、希望生徒が「課題研究I」の研究を更に深め、発表会や学会で成果を発信します。また、総合的な探究の時間「持続可能な社会の探究」では科学的根拠に基づき価値判断・意思決定でき

ることを目指し、全員がグループ毎にテーマを設定し、3年間の学びを振り返り、まとめ、下級生に向けたポスター発表で探究手法の継承を行っています。以上のSSH学校設定科目や普通科目では、お茶の水女子大学の先生方はじめ国内外の多様な分野の研究者や社会人講師による、探究活動に必要な知識・技術習得、キャリア形成や国際性・女性リーダー育成に資する講義、教科横断・融合的な講義、対面・オンライン研修を実施しています。授業外では、海外協定

校の台北市立第一女子高級中学とオンライン研修・合同発表会を、関東近県SSH指定6女子高校とは本学主催研修会・成果発表会等の交流会を、加えて、福島第一原発事故による被災と復興課題について多角的に学ぶ福島フィールドワークや本学理系女性育成啓発研究所主催工場見学などの体験型学習も実施しています。国立附属唯一の女子高である本校は、今年創立140周年を迎えます。良き伝統を守りつつ、新しい教育研究プログラムを鋭意開発中です。

附属学校園での出来事 2022年7月～9月

sep. 9

Aug. 8

Jul. 7

- 進路講演会(2年)
- 文化祭
- 第2回学校説明会(Web配信)
- 附属高校
 - 始業式
 - 第II期教育実習

- 附属中学校
 - 始業式、一斉下校
 - 第II期教育実習
 - 第2回学力テスト(3年)
 - 自主研究発表発表会
 - 生徒祭

- 附属小学校
 - 始業式
 - 校外学習(工場見学)(3年)
 - 不審者対応訓練
 - 栄養教育実習
 - 水泳学習(4～6年終了)

- 附属幼稚園
 - 始業式
 - クラス懇談会
 - 教育実習(後期2週間)
 - 避難訓練
 - 誕生会(9月)
 - PTAつぼみ会主催講演会

- いずみナーサリイ
 - 個人面談
 - 避難訓練
 - (首都圏大地震・引き渡し及び安否確認訓練)

- 附属高校
 - お茶大夏の研修会(関東地区SSH指定)
 - 7女子高校等研究交流会
 - 学力テスト(3年)

- 附属小学校
 - 帰国児童入学検定

- いずみナーサリイ
 - 水遊び・プール遊び
 - 避難訓練(地震・水あそび中)

- 附属高校
 - 保護者会(1～3年)
 - 学力テスト(1・2年)
 - お茶大英語によるサマープログラム
 - 終業式

- 附属中学校
 - 帰国保護者の会
 - 第1回学力テスト(3年)
 - 学年別保護者会
 - 終業式
 - 帰国編入検定、発表
 - オープンスクール(お茶中生がガイドする校舎見学ツアー)
 - お茶大英語によるサマープログラム

- 附属小学校
 - 避難訓練
 - 個人面談
 - 林間学校(裏磐梯)(6年)
 - 終業式

- 附属幼稚園
 - 誕生会(7月・8月合同)
 - 終業式

- いずみナーサリイ
 - 七夕遊び
 - 水遊び・プール遊び
 - 避難訓練(地震・午睡中)



表紙について

国際交流留学生プラザは、国際交流・地域貢献・世代間交流の3つの目的をもつ集いの場として建設されました。2階に設置された陶板「レッツ3つの色」は、現代美術家の日比野克彦氏が企画製作した参加型のパブリックアートです。本学附属小・中学校の児童・生徒とワークショップをとおして、制作されました。3階屋上庭園には、金工作家の宮田亮平氏による金属彫刻「シュプリングン〈世界に向かって〉」が設置されています。この学び舎から大きく羽ばたく若人達の姿を宮田氏のモチーフであるイルカに託して、若人達が全世界に発進し新たな歴史を創ってくれることを祈念して制作されたものです。

Ochadai GAZETTE

vol. 272
Autumn
2022

発行日 / 2022年11月4日

発行 / 国立大学法人お茶の水女子大学

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報担当

電話:03-5978-5105 FAX:03-5978-5545

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL: <https://www.ocha.ac.jp/>

本誌、お茶の水女子大学学报「Ochadai GAZETTE」は、本学ホームページにも掲載されています。どうぞご覧ください。



お茶の水女子大学
Ochanomizu University